

羽曳野市学校図書館ニュース 第18号

平成28年12月発行：羽曳野市学校図書館司書会

人を通して本を知る 本を通して人を知る 知的書評合戦 ビブリオバトル

☆ ビブリオ豆知識 ☆

・「ビブリオ」とはラテン語で「書物」の意味で、「戦い」の「バトル」と合成した言葉です。
・ビブリオバトルは、京都大学大学院の研究室勉強会の中で生まれました。勉強会で読む本を決めるために、みんなが探して持ちよった本を紹介しあったのがはじまりです。
その後、大阪大学から民間書店へと広がり、教育界・図書館界へと普及していきました。



ビブリオバトルとは？「知的書評合戦」とも呼ばれる、本の紹介コミュニケーションゲームです。
図書館や全国の学校、地域コミュニティなどでの取り組みが広がっています。
シンプルなルールで、自由度も高いゲームですが、どのように学校の中で導入していけばいいのか、それぞれの学校に合ったビブリオバトルの導入方法のヒントとなるよう、実践例を含めて紹介します。

ビブリオバトル 4つのステップ

① 本を持って集まる



小説、図録、マンガなど、どんな本でもOK。
聞く人にその本のおもしろさを伝えましょう。



自信を持っておもしろいと言える
本を自分で決めること！

☆「虫」、「宮沢賢治」など テーマを決めて開く
ビブリオバトルもあります。

② 1人5分間で本を紹介する



原稿は用意せず、聞く人の顔を見ながら、話の
組み立てを工夫して、好きな本への思いを熱く語り
ます。



あらすじ、感動した場面、好きな
登場人物、その本との出会いなど、
切り口はいろいろ。

※小学生には、紹介の時間を3分間にする
「ミニ・ビブリオバトル」が みとめられています。

③ ディスカッション



発表ごとに、参加者全員でその発表に関
するディスカッションを2～3分行います。
聞き手が質問して、発表者が答えます。

批判や からかいはせず、ゲームが
盛り上がる質問を考えます。



④ チャンプ本を決める



「どの本が一番読みたくなったか？」を
基準とし、参加者全員で投票。
最多票を集めたものを『チャンプ本』と
します。

チャンプ本を決めることは、ゲームと
して楽しむための大切な要素です。



【参考文献】 ビブリオバトルの楽しみ方や、全国での実践例が 多数紹介されています。

「知的書評合戦 ビブリオバトル 公式ウェブサイト <http://www.bibliobattle.jp/>」、『やるぜ！ビブリオバトル コミュニケーションナビ話す・聞く①』 監修：谷口忠大 鈴木出版 2016 年

羽曳野市での ビブリオバトル実践例

～昨年度・今年度の取り組みから～

国語 「すいせんします」の単元で

全8時間

目標: 相手が求めていることを踏まえ、推薦する本を考えることができる。
意図: 本を推薦するという目的をもつことで、本を深く詳しく読もうとする。



おすすめする理由は
3つあります。
1つ目は・・・

- 1時間目 推薦と紹介の違いを知る。
- 2時間目 クラスのともだちの読みたい本を知る。
- 3時間目 スピーチの技法を知る。9マス連想・3つあります作文
- 4時間目 3つあります作文で全員が1分間の推薦スピーチをし、投票によって3位までを決定。(上位3人は、図書時間に司書の前でも行う。司書からも推薦を行った。)
- 5時間目 ビブリオバトルのルール説明。原稿準備。
- 6時間目 本番(3時間)
 - 1回戦 8つある活動班の中で、それぞれチャンプ本を決める。ディスカッションタイムでは、1人1回は発言をする。
 - 2回戦 選ばれた8名が全体に紹介をする。2日間にわけ、それぞれでチャンプ本を決める。

型があることで、発表しやすい。

埴生小(5年生)

6年生 国語「本は友達 私と本」の単元でも取り組まれています。

短い時間で

1時間で練習・予選・決勝を行う。

事前に

- ・ビブリオバトルについて説明
- ・90秒を体感するため、司書から3パターンの実演
絵本の絵を見せながら
物語の挿絵を見せながら(付箋の活用)
クイズを入れて
- ・紹介する本を選んでおく。(読書感想文を書いた本等を選ぶとやりやすい)

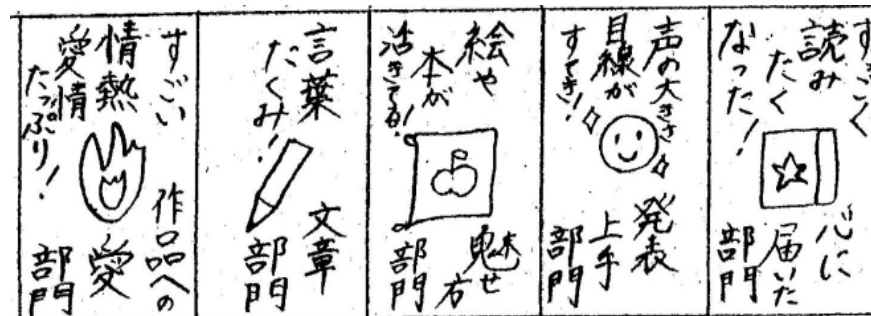
当日

- ・一人で練習 90秒×3回
- ・グループで予選。1人90秒聞き手はワークシートを使い、観点ごとに◎○を書き込む。
- ・決勝・投票

西浦東小(6年生)

ワークシートを使って

児童に分かりやすい観点をワークシートにして提示。
チャンプ本の他に、観点毎に部門賞を設けることで
「どうせ自分は選ばれない」というネガティブな姿勢が消える。



高鷲北小(5年生 国語)

他校ではこんな観点で！

- ・目線、体の向き、声の大きさ、間の取り方はよかったか
- ・発表の工夫や表現の工夫がされているか
- ・ストーリーの語り方

生徒からの「やってみたい！」の声を受けて

1時間目(20分) ビブリオバトルについて説明し、提案者の生徒と教師でバトル実演。
夏休み中に推薦したい本を選んでおくように予告。

2時間目(20分) 紹介の仕方を考え、原稿を書く。

その本の営業マンになったつもりで、考えよう！

宿題: 原稿は見ずに、時間を計って練習してくること。

3時間目(50分) ビブリオバトル本番。班の予選後、
各班代表が戦い、クラスのチャンプ本決定。
その後 チャンプには賞状としおりをプレゼント。

3学期にも
取り組みを予定。

始めは難しいかなと思ったけど、
とてもおもしろく、楽しくできた。
読みたい本が増えた。

チャンプやったー！！
次する時は有川浩で
チャンプになる！

羽曳野中(2年生 国語)

校内研修 先生同士でビブリオバトル

先生方の声

- ・本を通して、その人が分かる。ふれあいができる。
知らない本が、近くに感じられるなどよかった。
- ・子どもたち同士でもぜひやってみたいと思った。本を通じて
子どもたちがつながることができると感じた。
- ・ただ「知らなかった本の存在を知る」だけではなく、
紹介者の考え方や思い、人柄も垣間見ることができ、
おもしろかった。
- ・自分のふだん読まない
ジャンルの本などもたくさん
紹介されていて、非常に
楽しかった。書評を読む
のとは違い、ライブ感が
伝わってきた。



取り組み校: 西浦東小、羽曳が丘小、古市南小より